

徳島県防災・減災キャラバン公開講演会を開催

南海トラフ巨大地震への備えをテーマに

徳島大学 中野 晋 教授が講演

将来発生が危惧される南海トラフ巨大地震による被害予測および臨時情報発表時における対応行動、事前防災・減災のすすめの3つをテーマにした公開講演会が11月8日、市役所で開かれ、自主防災会をはじめ市民約60人が参加しました。

本講演会は徳島県と徳島大学環境防災研究センターの主催により、徳島県東部沿岸自治体の10市町で10月より開かれているもので、海陽町に続き本市は2か所目。

地域防災学および沿岸域工学を専門とし、南海トラフ巨大地震研究の第一人者である、徳島大学 中野晋教授が講演。先に発生した阪神・淡路大震災や東日本大震災を例に、今後起こりうる南海トラフ地震に向けた備えを訴えました。



中野教授の講演を聴講する参加者

東日本大震災で津波による甚大な被害を受けた宮城県石巻市を同教授が訪問、被害の状況を広域に視察するため同市にある日和山ひよりやまに登ったところ、その見渡しが小松島市に似ていると直感したことに触れ、本市における津波被害予測も同様に深刻で、ライフラインの復旧などに想定よりも時間を要し、市民の避難期間も長くなることが予測されると話されていました。

また、本講演会のメインテーマである南海トラフ地震の「臨時情報」について、「半割れ」、「一部割れ」のケース別に情報発表の際の対応について詳しく説明されていました。

聴講に訪れた市民らは、中野教授の話に聞き入るとともに、事前防災への心がけについて学ぶことができました。

コラム 南海トラフ地震臨時情報について

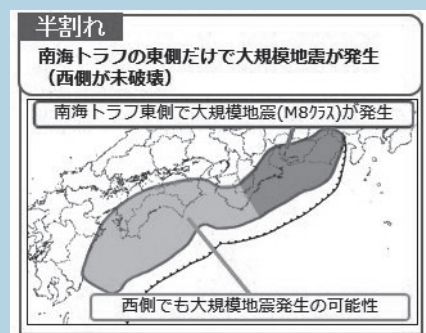
平成29年11月より、気象庁は「南海トラフ地震に関連する情報」を発表しています。情報は毎月1回定期的に発表される「定例情報」と、異常な現象を観測し、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まった時に発表される「臨時情報」の2種類があります。

臨時情報は、以下のような異常現象が発生した際に発表されます。

半割れ…東西に広がる南海トラフ地震の想定震源域の片側でマグニチュード8以上の地震が発生する場合（この場合、地震が起きていない反対側でも大規模地震発生の可能性が高まります）

一部割れ…南海トラフ地震の想定震源域およびその周辺でマグニチュード7以上の地震が発生した場合（大規模地震の前震である可能性があります）

ゆっくりすべり…プレート境界の固着部で異常なすべりが生じた場合



地震発生の可能性が高まった時に発表される臨時情報は、命を守るための重要な情報です。臨時情報が発表された際は、身の回りの安全を確保し、避難を検討するなど、速やかに地震に備えた対応をとることが大切です。